

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25671010

研究課題名(和文)統合失調症患者の口腔衛生に関する意識・知識・自己管理の現状と衛生指導要項の確立

研究課題名(英文)The present state of awareness, knowledge and self-management of dental health of people with schizophrenia and the establishment of health guidelines

研究代表者

吉井 初美(Yoshii, Hatsumi)

東北大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：10447609

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、統合失調症を含む精神障害者に実効性のある口腔衛生指導要項を開発することを目的とした。20か所の精神科デイケアに通所する精神障害者を対象に、開発した口腔衛生指導要項を用いて教育指導を実施し、教育啓発前から教育啓発半年後までの期間でアンケート調査を実施し、指導要項の有効性を検証した(有効回答数142名)。その結果、「フッ素入り歯磨き剤の使用」や「歯間ブラシまたはフロスの使用」など歯磨き用具の使用が促進することが示された。

研究成果の概要(英文):In this study, health guidelines which are effective for people with mental illness including schizophrenia are developed. In order to test the effectiveness of the guidelines, we conducted a questionnaire survey among people in the 20 psychiatric day-care service from before and to after six months of being educated on the guidelines (the number of valid response was 142). It was found that our guidelines can promote the use of a variety of materials for tooth-brushing such as a fluoride toothpaste, interdental brush, and dental floss.

研究分野：精神看護学

キーワード：統合失調症 口腔環境 口腔衛生指導

1. 研究開始当初の背景

わが国の精神障害者数は、平成20年に厚生労働省が実施した患者調査によると約323万人と推計されており、そのうちの約79.5万人が統合失調症患者で、全患者の2割～3割を占めている。

患者の多くは、原疾患の治療のために複数の抗精神病薬を服用しているだけでなく、副作用として出現する錐体外路症状を抑制するための抗パーキンソン薬、合併症治療のための薬剤など、多剤服用している者が多く存在する。口腔内環境は、内服に伴う唾液分泌量の減少に起因するう蝕の高罹患率や口腔内細菌数の増加が指摘されている。これらは、生涯にわたり服薬を継続しなければならない患者の口腔内の健康を考える上で重要な問題であり、特に患者が口腔内の健康を自己管理するための何らかの対策を講じる必要があると考える。

しかし、精神保健医療の現場では、精神疾患管理が優先され、身体管理の中でも特に、口腔衛生に関しては重要視されにくく、社会生活を営む外来患者の口腔衛生自己管理の実情は明らかにされていない。

2. 研究の目的

統合失調症患者を含む精神障害者への効果的な口腔内健康に関する支援を行うために、精神科デイケアに通う外来患者を対象とした嗜好品を中心とする食生活および口腔状態、口腔衛生自己管理の実態調査を行い、実情を明らかにし、衛生指導要項を確立し、その効果を検証することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

実効性のある口腔衛生指導要項を提供するために、以下の2つの研究を行った。

(1) 前向き調査研究

精神科デイケアに通う精神障害者を対象に「嗜好品と摂取量」「歯磨回数・施行時間帯」「口腔衛生の知識」「自覚できる口腔内

の状態」「属性」についてアンケート調査を実施。

(2) 口腔衛生指導要項の確立

精神障害者を対象とした口腔衛生指導要項を作成した。指導要項は、「歯を失う原因」「虫歯」「歯の清掃」「歯周病」「歯科定期健診」の5つのユニットで構成し、37枚のスライドを用いた30分間の内容である。対象者にこの指導要項を用いた教育啓発を受けてもらい、その前後でアンケート調査を実施することで、指導前後の変化についての数理的な説明を行なった(指導後調査は1週間後、1月後、3ヶ月後、半年後、1年後に実施)。その結果から指導要項の有用性を統計的に評価した。

(3) 統計解析

人口学的特徴と口腔状態、間食や嗜好品、セルフケアとの関連は、Cross-tabulationと χ^2 testを用いて検定した。また、指導要項を用いた教育啓発効果の検証は Cochran Q test を用いて解析した。両側検定で p 値 0.05 未満を有意差ありとした。

本研究は、東北大学医学系研究科および対象施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

<対象者の人口学的特徴>

25か所の精神科病院院長に調査を依頼し、20か所から同意を得た。研究者が各病院のデイケアを訪問し、メンバー(精神障害者)に研究説明を行い、合計390名から同意を得て調査を実施した。有効回答数は以下のとおりである;教育啓発前323名、教育啓発1週間後218名、1月後226名、3ヶ月後191名、半年後183名、教育啓発前から教育啓発半年後までを通して142名。

教育啓発前323名のうち、62.5%が男性で、年代別にみると60歳代が31.6%、学

歴では高卒が 42.4%、疾患別では統合失調症が 64.4%、入院期間では 1 年未満が 32.2%と最も多かった。

< 口腔状態と人口学的特徴との関連 >

歯の本数が 19 本以下の対象者の特徴は「入院 5 年以上」だった(p<0.05)。外観が気になる対象者の特徴は「薬の副作用あり」だった(p<0.05)。

< 間食や嗜好品と人口学的特徴との関連 >

毎日スナック菓子を食べる対象者の特徴は「入院 1 年未満」「月収 3~10 万未満」「BMI 標準以下」だった(p<0.05)。毎日果物を食べない対象者の特徴は「男性」だった(p<0.05)。毎日コーラやアイスクリームを食べる対象者の特徴は「男性」だった(p<0.05)。喫煙ありの対象者の特徴は「男性」だった(p<0.05)。

< セルフケアと人口学的特徴との関連 >

食後に歯を磨かない対象者の特徴は「男性」「精神病発症後 10 年以上経過」だった(p<0.05)。寝る前に歯を磨かない対象者の特徴は「男性」「精神病発症後 10 年以上経過」だった(p<0.05)。歯間ブラシやフロスを使用していない対象者の特徴は「統合失調症」「入院経験 1 年未満」だった(p<0.05)。かかりつけ歯科医がなく、ここ 1 年間歯科健診を受けていない対象者の特徴は「男性」だった(p<0.05)。歯科医院等で歯みがき指導を受けたことがない対象者の特徴は「男性」だった(p<0.05)。家族や周囲の人々が歯の健康に関心がない対象者の特徴は「男性」「高卒」だった(p<0.05)。

< 口腔衛生指導要項の効果の検証 >

教育啓発前から教育啓発 1 週間後、1 月後、3 ヶ月後、半年後までを通して得られた 142 名の有効回答を用いてセルフケアに

関する効果の検証を行った。その結果、すべての期間で効果が得られた内容は「フッ素入り歯磨剤の使用」だった(p<0.05)。

また、歯間ブラシやフロスの使用は、教育啓発 1 週間後と半年後に効果を示した(p<0.05)。

以上から、本口腔衛生指導要項は歯科用具の使用促進に関して効果が得られたと言える。

教育によるセルフケアの変化(n142)

Item	p			
	Baseline-1week	Baseline-1 month	Baseline-3 month	Baseline-6 month
食後に歯を磨きますか				
毎日	0.532	0.346	0.841	0.602
時々	0.732	0.695	0.869	0.768
いいえ	0.796	0.134	0.655	0.827
普段、デイケアや外出先でも歯を磨きますか				
毎回	1.000	1.000	0.180	0.549
時々	0.034*	0.237	1.000	0.869
いいえ	0.028*	0.178	0.178	0.450
夜寝る前に歯を磨きますか				
毎日	0.127	0.178	0.303	0.695
時々	1.000	0.564	1.000	0.655
いいえ	0.071	0.414	0.221	0.414
フッ素入り歯磨剤(ハミガキ)を使っていますか				
はい	0.001*	0.001*	0.001*	0.001*
いいえ	0.001*	0.001*	0.001*	0.001*
フッ素入りか				
どうかわから	0.001*	0.005*	0.003*	0.423
ない				
歯間ブラシまたはフロスを使っていますか				
毎日	0.046*	0.157	0.090	0.016*
時々	0.715	1.000	0.577	0.450
いいえ	0.239	0.273	0.465	0.194
歯科医院へはどのような場合に行きますか				
気になるところがなくとも、定期的に行く				
	0.480	0.705	0.593	0.132

気になるこ ろがあると、 早めに行く 痛いなど、悪 い症状・問題 があったら行 く 痛いなど、悪 い症状・問題 があっても行 かない	0.789	0.353	0.162	0.862
	0.516	0.862	0.369	0.435
	0.317	0.197	1.000	0.827

*p<0.05

<考察>

本研究で、「歯の本数が19本以下である者」は、「入院5年以上」で有意に割合が高かった。これについては、精神科入院期間の長さが口腔衛生の悪化と関連しているという結果を示す国際学術誌の先行研究結果と一致する。病状の悪さが入院の長期化を招くのだが、日本の場合は、病状が安定していても受け入れ先が整わない、いわゆる社会的入院患者が約70000人おり、患者の平均在院日数が約300日と国際的に見ても長期化している。したがって、病状に関わらず入院生活中の患者の口腔衛生管理が必要だと言える。

また、本研究で、男性が毎日果物を食べなかったり、毎日アイスクリームやコーラを飲み、喫煙するなど嗜好品の問題があり、かかりつけ歯科医院がなかったり、食後や夜寝る前に歯磨きをしなかったり、年に1回以上歯科医院で定期健診を受けていない割合が有意に高いことが示されている。これは、Perssonらのスエーデンでの精神科外来通院中の統合失調症患者を対象とした口腔衛生調査でも、男性患者の口腔衛生状態不良について報告していることから、男性の精神障害者をターゲットにしたセルフケアや食事指導、定期健診の重点的指導介入

が必要であることがわかる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

吉井初美、北村信隆、齋藤秀光、赤澤宏平、統合失調症患者の口腔衛生支援レビュー、総合病院精神医学、査読有、Vol.25、No3、2013、pp268-277

[学会発表](計 2 件)

吉井初美、北村信隆、齋藤秀光、精神疾患を有する人々の口腔状態とセルフケア。日本有病者歯科医療学会総会・学術大会2016年3月4日~6日。ポスター発表タワーホール船堀(東京都江戸川区船堀) Yoshii H. Oral hygiene support for patients with schizophrenia: Review. SCITEED 2014 International congress & exhibition on current trends on science technology Education. 2014, April 24-27. Oludeniz, Turkey. The paper and Presentation.

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉井初美 (YOSHII, Hatsumi)
東北大学・大学院医学系研究科・准教授
研究者番号：10447609

(2) 研究分担者

赤澤宏平 (AKAZAWA, Kouhei)
新潟大学・医歯学総合病院・教授
研究者番号：10175771

齋藤秀光 (SAITO, Hidemitsu)
東北大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：40215554

北村信隆 (KITAMURA, Nobutaka)
新潟大学・医歯学総合病院・非常勤講師
研究者番号：90224972